

広島大学

学生にズームイン!!

OPERATIONつながり

「被災地のために何かをしたい」。2011年に発生した東日本大震災が、学生たちの心を動かし発足した。現在のメンバーは、学部生を中心に約50人。3つの事業部に分かれ、ボランティア活動を行っている。(日川)

事業部は、地域交流ボランティア事業部以下、地域部(海外ボランティア事業部以下、海外部)、災害ボランティア事業部以下、災害部。当初は、東日本大震災



チャム族の村の日本語学校で授業を行う海外部のメンバー(2018年3月)

人と人との輪を広めていきたい

の被災地でボランティア活動を行う震災復興ボランティア事業部以下、震災部の4部制で活動を行っていたが、昨年7月、災害部に統合した。



九州豪雨災害の被災地で流木を撤去する災害部のメンバー(2018年3月)



呉ポートピアで行われた、きんさい家の遠足風景。さまざまな人たちが交流を深めた(2017年6月)

「伝える活動」にも力を入れてきた。東北での活動が「災害時には、地域でのつながりが重要になる」との思いにつなが

りできたのが地域部だ。東広島市社協が行っている東広島に住む障がい者とその家族、地域の子どもたちが集うイベント「きんさい家」を支援したり、地域おこしを手伝ったり、世代を超えた交流の輪を広める活動に力を注いでいる。

海外部は、ベトナムに留学していた学生がベトナムの少数民族チャム族と出会うことが縁で発足。日本とベ

被災地で、地域で、ボランティア活動



これまでの活動について振り返る左から大槻竜也さん、森岡まどかさん、繁田京ノ輔さん

トナムの懸け橋になればと現地にできた日本語学校の講師として参加、現地の人と交流を深めている。過去には、大学内外のイベントでベトナムの雑貨などを販売、チャム族への資金援助を行ったり、東広島で活躍する外国人を取材し、ホームページ上で紹介したりする活動にも取り組んだ。

14年の広島土砂災害を受けてつづいた災害部は、発生直後から安佐北区住民と交流する活動を続けている。熊本地震や九州豪雨災害の被災地なども訪れ、被災住民との交流を通して、いざと

いづくに助け合える「コミュニティ」づくりを目指している。一方で、大学祭などの展示や、被災地を歩く「町歩き」の活動を通して、防災意識を高めてもらう活動にも取り組んでいる。

副代表で同学部3年・森岡まどかさんは、被災地を訪れて一番感じるのは被災者の心のケア。そのためには、どうしたらいいのかを常に考え活動したい、地域部長の同学部2年・繁田京ノ輔さんは「東広島は都市化進展している。もっと地域同士の輪が広がる交流に力を入れたい」と目を輝かせている。

「OPERATIONつながり」というネーミングには、つながりというツールを持って向き合うことで、一人ではできないボランティア活動を可能にするという思いが込められる。サークルの代表で、教育学部3年の大槻竜也さんは、学生と地域高齢者、外国人、そして被災者の枠を超えた、たくさんの人と人とのつながりをつくって